

2026 年 1 月 5 日

『みんなのスポーツ』 1・2 月合併号(No.520)から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の 1・2 月合併号は「第 66 回全国スポーツ推進委員研究協議会」の特集号です。

私の視点で気づいたこと・感じた事、参考になる点を 3 点記載します。



- (1) 第 66 回全国スポーツ推進委員研究協議会長野大会 全国大会に関連する記事が 20 ページ近くで号の半分近くで力が入っていると感じました。また、ここまで詳しく紹介していただけると、大会に参加していない人にも良くわかる素晴らしい内容と思います。三浦半島地域でも本冊子を購読しているところは少ない。11 月号で「横須賀」の例を紹介いただきました。その際に頂いた出版社から本冊子を他市の方にさしあげる、市内の別グループには回覧で読んでいただくようにしました。一人でも多くの方に「みんなのスポーツ」を購読いただけたらと思います。
- (2) 同上、第3分科会「アダプテッドスポーツの推進と健康寿命の延伸を支えるスポーツ推進委員」前日のシンポジウムが良かったと思うが、翌日の各分科会に対してのつながりが良くできていた。横須賀市は第3分科会に参加して色々なことを学びました。「アダプテッドスポーツ」とは、人がスポーツに合わせるのではなく、それぞれの身体条件や生活背景に応じてスポーツの側を調整し、だれでも無理なく楽しめる形に工夫していく考え方。こうした柔軟な発想は、地域で活動する私たちにとって、これから求められる姿勢だと感じました。
大会に参加したメンバーで帰りの車中で、学んだことや感じたことを話し合っていた時に、第 3 分科会の話題で持ちきりでした。アイスブレイクの方法や加藤氏からできない理由を探すよりは、「できる方法を工夫する」姿勢の大切さを学びました。15 年以上前にレクリエーション協会学んだアイスブレイクをこれからも試していきたいと思います。失敗を恐れていたこともありましたが、挑戦することの大切さも学びました。
- (3) R7 年度「都道府県協議会会長意見交換会」今までもこういう内容があったかもしれませんが見落としていたかもしれません。神奈川県会長は表記のような会議の状況も都度理事会などで報告があります。
今回一番目に留まったのが、「部活動の地域展開」は市町村で相当な違いがあるように思います。スポーツ推進が、首長部局なのか教育委員会なのかで違うのではないだろうか？ 横須賀は首長部局である。しかし、現状この取り組みの主体は教育委員会でワンクッション入っているようで、動きが少しずつ遅い。スポーツで街を活性化しようというのにはなんだかじれったい。理由は資源(指導者や金、場所他)があることは認めるが、もっとみんなを巻き込んでやっていかれればと思う現状です。

今月号で3つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことでできることから始めて(行動)みませんか？

＊ **本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがある**ように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。**問題意識や感度を高めていく**と紹介されている事例が使える場合と横須賀ではこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど思います。特にここ 1、2 年で**冊子内容が読者参加型の編集**になりました。
活動はみんなでは是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上